

## 自分にはよいところがあると思いますか

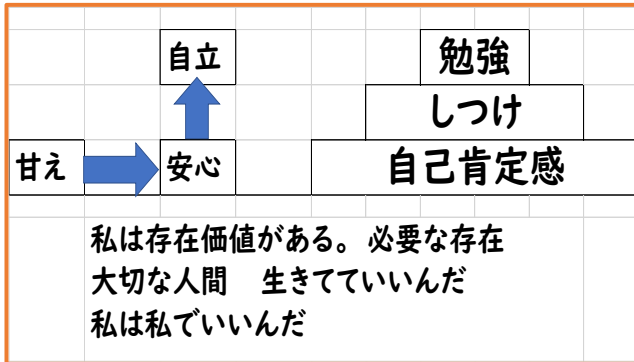
今年度の学校の取組を評価する方法の一つとして、保護者のみなさん・子どもたち・教職員にアンケートを実施しています。6月と11月に同様の質問を行うことで、その変化から学校や家庭での取組を考察し、伸びた項目については、さらに深化させたり、改善が必要な項目については、重点的に取り組むようにしたり、来年度に向けた新たな具体策を考えたりする一助としています。

子どもたちは「勉強がよくわかりますか」の問いに対して、6月と比較すると「よく分かる」との回答が9ポイント上昇していました。これは、子どもの自律に向けて、友だちとの対話や協働学習を意識的に仕組んだり、子どもたちが自分のペースで授業を進める自由進度学習に取り組んだり、タブレットを様々な学習で活用する授業を計画立てている先生方にとっても嬉しいことでした。

ただ、「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに、「ある」「ない」「わからなrai」の3択回答では、「わからない」と回答した子どもたちが6月より増えていたのは気になるところです。関連した質問で保護者の方に尋ねた「お子さんのよい所をほめていますか」については肯定的な回答が昨年度より増加しており、先生方への「子どもたちの伸びや認める言葉を意識していますか」に対しても良好な回答であったことから、昨日の職

員会議でも話題にしたところです。

富山病院心療内科の明橋先生は、子どもたちの自己肯定感（ありのままの自分を受け入れる自己を肯定する感覚）は、「たっぷ



りと甘えた人が自立するのです。」  
「がんばろうとではなくて、がんばっているねと声をかけて」「一番有効な言葉は『ありがとう』です。ありがとうは相手の存在感を高める言葉です。」と話をされて

いて、自己肯定感を考える際に大きな示唆を頂くことがあります。また、保護者や地域の方々とも協力して行っていくことと考えていますので、17日の学校運営協議会でも話題にし、一緒になって考えていきたいと思ひます。

学校でも様々な取組を日々の教育活動で行っていますので、今回の結果を委員会も検証し、来年度の取組につなげていきたいと思ひます。



今朝、校長講話の機会がありましたので、オンラインでくすのきしげのりさんの絵本「ええところ」の読み聞かせをしました。その後、教室をのぞいてまわると、絵本から自分たちのクラスのことへと話を広げていたり、一人ひとりが

描いた絵を紹介しながら、みんなでいいところを伝え合ったりしてました。絵本のあいちゃんのようにじぶんの「ええとこ」に気づける子が増えるように、みんなで取り組んでいきたいと思います。